せせらぎ温泉

Seseragi Onsen
（長野県佐久市）

秘湯という言葉がある。また、知る人ぞ知る温泉というものもある。今回紹介するせせらぎ温泉は、そんな温泉だ。

別に延々と歩いていかなければならないというわけではない。町中にあって、車でも行ける。しかし、あまりたくさんの人が訪れているわけではなさそうだ。ひっそりとしている。しかも、アクセス道路は狭い。人を寄せ付けないようにしているように感じる。

建物は古い木造の平屋建。中もやたらと古い。正面にフロントがあり、奥が薪ストーブのある無料休憩場所、右手が風呂、左手が食事処である。無料休憩場所にはバーのようなカウンターもあるが、カウンターの奥に酒は並んでいない。無数の置物が並んでいる。

さらに奇妙なのが風呂の入口である。1m 四方程度、深さ 1m 程度の水槽があり、中を覗くと巨大な（体長 30cm 程度）カメが 4 匹いる。なぜ温泉にカメなのか。意味は不明だ。単にオーナーがカメ好きなのであろう。カメには何を食べさせているのだろうか。

脱衣室には籠が 16 個。ロッカーはない。貴重品はフロント前の貴重品ロッカーへ入れよう。貴重品ロッカーは 18 個あり、無料で使用できる。

いよいよ浴室である。浴室の最大の特徴は浴槽。ごつごつとした大きな岩があちらこちらに配置され、野性味があふれている。浴槽の両側にはほてった体を冷やす場所がふんだんにある。湯はややぬるめで長湯が可能だ。ひょっとしたら、我々取材班が来たので、急いで湯の投入を始めたのかもしれない。だんだん温まってきた。浴槽の定員は 10 人程度だ。

洗い場は 5 か所。なぜかボディーソープしかない。ボトルが全部ボディーソープなのだ。しかし、2 個 1 組になっているボトルの一方にだけ、マジックの手書きで「ボディー」とわざわざ追記してある。つまり、手書きがない方のボトルはシャンプーのようである。

風呂上がりに暖炉の前で休憩していたら、女将さんがお茶、野沢菜、マッチをサービスしてくれた。その野沢菜は自家製で、ニンニクが使用されている独特の味だった。酒がほしいところだが、運転して帰らねばならないので、我慢する。

女将さんの話によれば、このせせらぎ温泉の営業時間は、女将さん次第のようである。今は冬なので、昼頃にオープンし、夜は客がいる限り営業するのだという。20：00 までは最低でも営業をするが、それ以降は客の入り次第だそうだ。入浴したい場合は、あらかじめ電話して確認した方がよさそうだ。

また、せせらぎ温泉には食事処があるが、食事をしたければ、入浴前に注文しておくことをお勧めす

る。そうすれば、入浴後に速やかに食事にありつけるらしい。名物は岩魚だ。

ちなみに屋号のせせらぎ温泉の由来は、浴槽にせせらぎのように湯が注ぎ込むからなのか、近くに千曲川の支流である湯川があるからなのか、尋ねるのを失念してしまった。次回訪問時に聞いてみたい。温泉はアルカリ単純泉のようだが、効能など詳しいことは不明である。

本日は 3 週間ぶりにスキーをして、足がくたくたである。しかし、明日もスキーを頑張らねばならない。せせらぎ温泉の浴槽で足を揉みほぐし、明日に備えた。せせらぎ温泉は、人を寄せ付けないようにしているわけではなかった。自家製の野沢菜がそのホスピタリティーを物語っている。

DATA

名称	せせらぎ温泉
所在地	長野県佐久市鳴瀬 1561
電話	0267-68-1748
営業時間	10：00～22：00（本文参照）
定休日	木曜日
入浴料	大人 600 円、小人 400 円
サウナ	なし
サウナ内のテレビ	なし
取材日	2018 年 12 月 22 日（土）
取材	銭湯愛好会東京支部